

在宅医療・介護多職種連携協議会 研修部会 ～報告～

目 的

在宅医療に係る多職種連携の推進のための研修体制について検討する。

○顔の見える関係会議や在宅医療研修の内容について検討

○その他の研修(各団体主催研修会の連携・調整など)について検討

<令和4年度> 部会内容

第1回部会

オンライン会議
(令和4年6月6日)

- 1 議事 ・令和4年度 顔の見える関係会議の実施について
・意思決定支援 支援者向け研修（eラーニング）について
- 2 報告 ・令和4年度 各団体の研修会予定一覧

<議事①> R4年度 顔の見える関係会議の実施について

R3年度実施した顔会議・評価アンケート報告

R3年度は「**オンライン**」を活用した開催を試み、**多職種連携への効果が得られるかの検証**を丁寧に行いました。



○日時 令和3年10月14日（木）午後7時～9時

○参加者 市内の医療職・介護職

○規模 **70名** 1グループ**5～6名**× 12グループ

○周知 在宅医療に携わる事業所を中心に職能団体を通じて周知

○テーマ 『**コロナ禍での多職種連携～明日につながる取り組み～**』

○オンラインだからこそ実施した工夫：

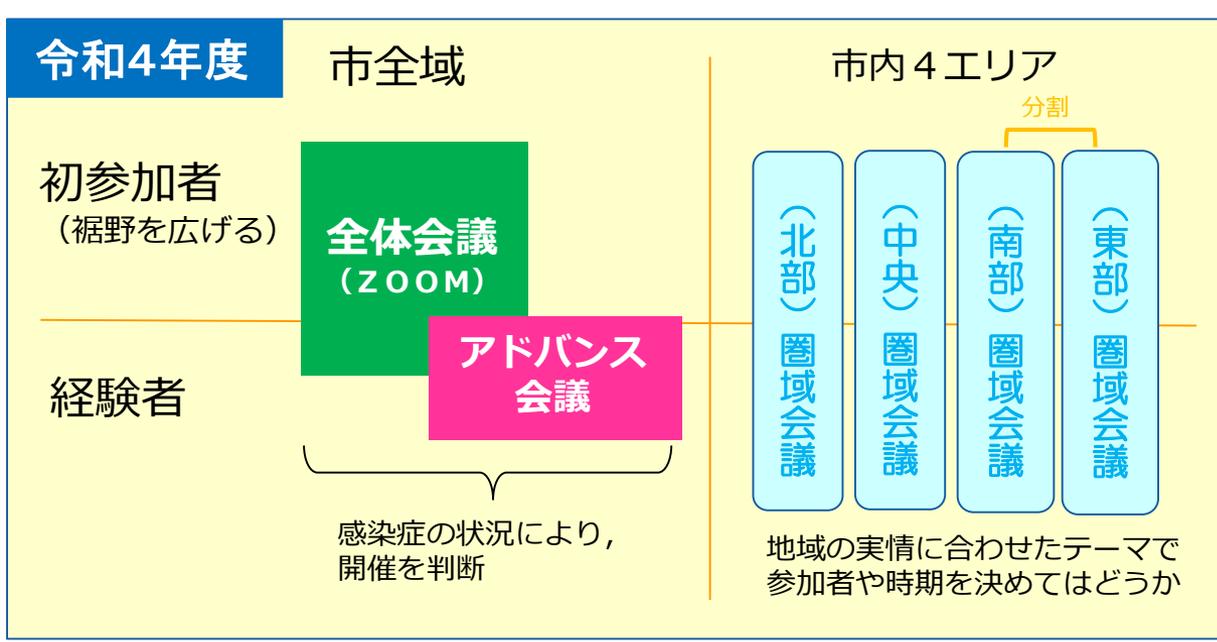
- ・会議資料・Web会議ルール・Zoom操作説明書等を参加者に**事前送付**
- ・オンラインに不慣れな方を対象に、会議前に**オンラインサポートタイム**を設ける
- ・アイスブレイクや雑談の時間を重要視し、**工程時間に余裕**を持たせる
- ・**進行役**、**書記の負担軽減**の工夫



⇒（評価アンケートの結果より）R3年度実施したオンラインを活用した顔会議は、**多職種連携の推進、およびその後のオンライン活用につながる効果があった。**

R4年度 顔の見える関係会議

多職種の参加・多職種連携の土台づくりに加えて、支援の質向上につながるよう整理した内容



	エリア座長	担当包括
北部	古賀先生	北部, 北部第2 北柏, 北柏第2
中央	織田先生	西口, 西口第2 東口, 東口第2
南部	平野(圭)先生	南部, 南部第2 光ヶ丘
東部	石橋先生	沼南

令和4年度の方向性 (R3年第3回部会で部会員の皆様よりいただいたご意見)

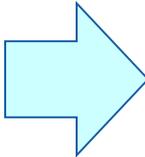
- ◆ 基本的にはオンライン開催 (感染症の状況により、参集での開催も検討する。)
- ◆ 参加者の業務負担, 事務局側の人員等を踏まえた上で, 全体会議・圏域会議・アドバンス会議を開催する。
- ◆ 感染拡大時は, 圏域会議を第一優先として実施する。

今年度の顔の見える関係会議のテーマ

「在宅医療に関する課題」ということを出し合い、そこから顔の見える関係会議のテーマとなるものを検討しました。

各グループのご意見

全体	【1G】コロナ禍での連携の課題(退院時, 情報共有など) 【2G】カシワニネットの利用, 情報共有や連携について 【3G】コロナ禍での連携の課題
圏域	【1G】地域性のある課題 【2G】退院時の連携, 認知症・独居の方への支援 ←エリアごとに異なるテーマ 【3G】独居の方への支援
アドバンス	【1G】自分で意思を伝えられない方への支援が難しい(認知症, がんなど) 【2G】コロナ陽性者で疾患を持つ方への対応, ルール作り(透析を受けている方など) 【3G】認知症の方への支援(意思決定)



以上のご意見を踏まえて、今年度の顔の見える関係会議を開催します。

<議事②>意思決定支援 支援者向け研修(eラーニング)

コロナ禍で集合型研修が実施できない中でも、本人の意向を尊重した医療・介護ケアをおこなうために、**意思決定支援 eラーニング教材**の作成を進めています。

■目的

- ・意思決定支援とはなにか、専門職が支援することの必要性・大切さを理解することができる。
- ・日々の支援の中で、各職種ができることを知り、実践につなげることができる。

■対象

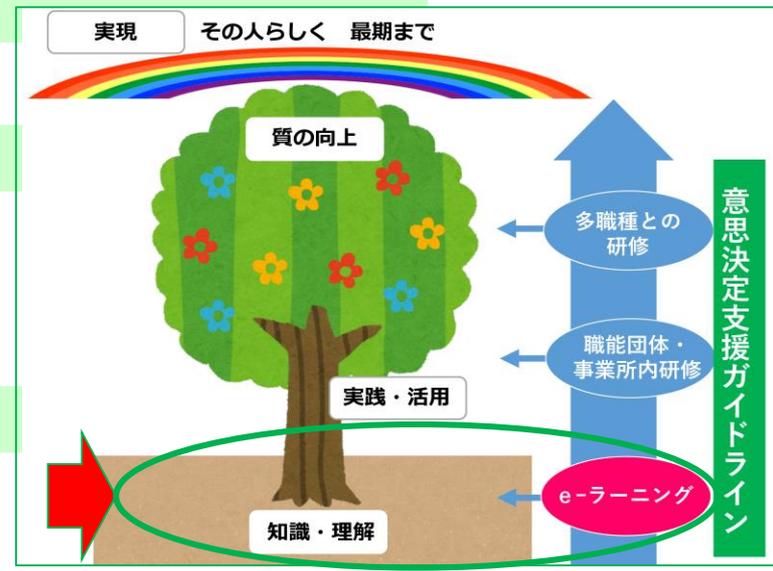
- ・柏市で働く医療・介護の専門職 **(特に意思決定支援の経験が少ない方)**

■コンセプト

- ・意思決定支援ガイドラインがベース
- ・簡単にアクセスできる(柏市HPに公開)
- ・短時間で受講できる構成
- ・実際の支援の場面を映像やイラストで紹介する

■活用方法

- ・柏市ホームページに限定公開 (URLを通知した柏市の専門職のみ閲覧可能)
- ・事後アンケートを実施して、効果を検証。



構成

導入編 (5分)

- ・意思決定支援とはなにか、どうして必要か
- ・本人や家族に対する効果 専門職にとってのメリット 等

事例からの学び

在宅編

施設編

- ・ケース紹介(5分)
- ・座談会(振り返りの機会の効果) (5分) **動画**
- ・個別インタビュー(10分) **動画**
- ・まとめ(5分)

実践ツール

- ・意思決定支援ガイドライン
- ・振り返りカンファレンスの進め方(例) 等

導入編

事例からの学び

在宅編

施設編

実践ツール

音声で解説（ナレーション）し、動画のような形にして、掲載する予定です。（5～10分程度）

イメージ

意思決定支援の必要性

意思決定支援ってどうして必要なんですか？

人は目ごころから、さまざまな選択をしながら暮らしています。今日は何を食おう、何を着て出かけよう、それは価値観や考え方に基づいて選択されています。

「自分らしく生きる」と言っても、医療やケア・療養場所など、さまざまな選択が必要です。

治療が必要になっても「家でどおり家で過ごしたいけれど、それは自分の力がままかな。せめて病が入るまで家で一緒にいたいな...」

希望に沿った生活を送るため、また最期の時まで穏やかに過ごしていくためにも、元氣なうちから自分の思いや希望を周りに伝えることが重要なのですが、それがなかなかできていない人が多いのが現状です。

だから話し合うきっかけを作ったり、意向を繰り返し確認することが大切なんですね。でも私は介護職なので、なにができるか...

意思決定支援は、医療職だけが行うものではなく、本人・家族を支える多職種がチームで支援するものです！本人の生活を身近でサポートし、コミュニケーションの機会が多い介護職だからこそわかる、本人の本當の気持ちや大切にしているものを、チームのみんなまで情報共有しましょう。

「意思決定支援はなぜ必要なのでしょう...」

意思決定支援とは

日頃の関わりや話し合いを通じて、本人や家族の人生観・価値観を理解・共有することで、人生最期の迎え方を含めて自分らしく生きるための選択を支える過程のことです。

例えば...

情報提供（病状や治療、介護サービス等） 話し合いを繰り返す 支援チームでの情報共有

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)

患者・家族・医療従事者の話し合いを通じて、患者や家族の価値観を明らかにし、これからの治療・ケアの目標や嗜好を明確にするプロセス

意思決定支援とは、その場での決定を促すものではなく、プロセスがとて重要で、自分が知り得た情報を共有し、チーム全体が本人・家族についての理解を深めていくことなのです。

話し合うプロセスを共有していくことで、本人がどのように考えているかを理解していくことが大切なのですね！

* Ritens, et al. Lancet Oncol. 2017.

「意思決定支援とは...」

意思決定支援に関する国の動向

平成18年 人工呼吸器取り外し事件をきっかけに、平成19年「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」策定
※平成27年3月に「人生の最終段階の決定プロセスに関するガイドライン」に名称変更

インフォームドコンセント チーム医療

平成30年 ガイドライン改訂「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」

施設看取りの需要増大 介護職は医療・ケアチームの一員
日頃から話し合うことの重要性 ACPの重要性

平成30年「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」

意思表示(身振り、表情)を読み取る努力
本人の意思の尊重 疾患や症状を理解することの重要性

令和元年「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」

成年後見制度と身元保証・身元引受等 医療機関における身寄りがない人への具体的な対応

ACPを「人生会議」と称し、国としても意思決定支援の取り組みを進めています。

「国でも意思決定支援の取り組みをしています...」

意思決定支援 eラーニング研修

～導入編～

- ・意思決定支援の必要性
- ・意思決定支援とは
- ・国の動向
- ・事例紹介
- ・支援することのメリット
- ・意思決定支援の心得

令和4年 月
柏市地域医療推進課

◆導入編 資料案（別紙参照）

第1回研修部会では、「導入編」の資料案について部会員の皆様のご意見をうかがいました。

導入編へのご意見

このeラーニング研修のメインターゲットは「意思決定支援の経験が少ない方(特に介護職)」です。そのような方々が見て、「自分たちも意思決定を支える一員なんだ!」と思ってもらえるような導入編で取り上げる内容や工夫はどのようなことがあるでしょうか？

■部会員の皆様のご意見■

<内容>

- ・本人の意思決定支援と、残された方々への支援が同じくらい必要。
- ・“基礎知識編”“基礎用語編”などがあると、経験の少ない方の勉強になるのではないか。
- ・事例があるとわかりやすい。
- ・文字だけでは見づらいので、イラストや動画を使用すると良い。
- ・口頭で簡潔な説明があると頭に入りやすい。
- ・集合研修やカンファレンスに繋がると良い。
その際の研修主催者(事業所長等)の手引きがあると良い。

<構成>

- ・導入はeラーニングで、深堀は参集での研修が行えると良いのではないか。
- ・空き時間で見られる良さがある。1つ15分程度など、短いコンテンツだと受講しやすい。
- ・小テストで振り返りができると印象に残りやすい。

<周知の工夫>

- ・各事業所で受講期間を設けて、受講を促すなどの工夫が必要。

<課題>

- ・学んだことを実践に繋げて、それを現場でどう評価するのか。

■ 研修部会

○ **第2回研修部会** : 令和5年2月24日 (金) 19:00~

■ 顔の見える関係会議

○ 全体会議

FT会議 : 令和4年7月7日 (木) 19:00~

顔会議 : 令和4年 8月4日 (木) 19:00~

* 7月21日から
8月4日へ日程変更

○ 圏域会議

合同FT会議 : 令和4年9月30日 (金) 19:00~

※ 圏域毎の顔会議の日程は追って決定いたします。

○ アドバンス会議

FT会議 : 令和5年1月27日 (金) 19:00~

顔会議 : 令和5年2月10日 (金) 19:00~

